

令和4年度第1回会議の振り返り・まとめ

■はじめに

黒沢洞合自然公園は、三郷小倉地区で良好な里山の自然環境が残っている場所であることから、里山の自然に触れ合えるビオトープ公園として、公園用地の一部を三郷村合併50周年事業の一環事業で、当時の中学生が設計に携わり整備された公園です。

今後、市民の皆様にあいさされ活用される自然公園として、黒沢洞合自然公園整備拡張を行うために、基本方針を定め、事業を推進することとします。

■令和4年度第1回黒沢洞合自然公園整備検討委員会の決定事項

- ① 現在のビオトープ型の自然公園を継承し延長拡大すること
- ② 子どもが関わる（構想・整備・利用）公園と位置づけ事業をすすめること

■委員の皆様より提案いただいた内容

- ・多種多様な生物が集まりやすい空間が確保された自然公園
- ・最初から作り込み過ぎない植樹
- ・昆虫、植物の採取が自由にできる自然公園
- ・都市部の喧騒から隔離された、安全で自由度の高い自然公園
- ・教育保育機関の体験活動、学習活動が実施しやすい自然公園
- ・多くの市民の方に興味を持ち利用いただけるような自然公園
- ・観察会、森林整備、野外交流などを行える自然公園
- ・生き物や季節の花等を楽しめる貴重で有意義な公園
- ・生態系を守りつつ、体を動かしいろいろな体験のできる公園。
- ・里山の良好な環境を、後世に誇れる環境遺産として継承される公園。

『環境保全・継承』『自由度』『体験』という
キーワードが多く挙げられました。

■今後検討が必要な事項

- ・公園の管理方法について